東日本大震災　MSW 災害支援ニュース

JASWHS　公益社団法人　日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

令和元年６月20日　第９巻（第１号）

発行：東京都新宿区住吉町８−２０ 四谷チンゴビル２F
災害支援チーム　TEL (03)3351-5038
FAX (03)5366-1058
Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

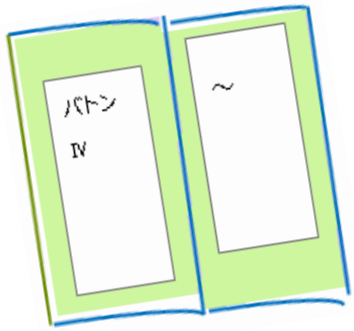
もくじ

１．　石巻活動の今後、９年目の活動にむけて
２．　今年度に向けて
３．　石巻の３年間を振り返って
４．　自立支援事業を振り返って
５．　石巻市の現在の様子
６．　災害支援チームからのお知らせ
７．　災害支援ニュース発行のお知らせ
８．　あとがき

お　知　ら　せ

「東日本大震災
医療ソーシャルワーカーの支援のバトン
Ⅰ　～　Ⅳ　」
が発売されています！！

詳細は、協会ホームページ
及び　【1．書籍販売】をご覧ください。



≪　支援活動地域別　仮設住宅報告　≫
（　宮城県保健福祉部震災援護室　仮設入居状況より抜粋　）

石巻市応急仮設住宅現況報告

応急仮設住宅（プレハブ住宅）入居状況（令和元年５月３１日現在）
入居戸数　　１１戸
入居人数　　１５人

応急仮設住宅（民間賃貸借上住宅）入居状況（令和元年５月３１日現在）
入居戸数　８戸（県外４戸、仙台１戸、石巻３戸）

１．石巻活動の今後、９年目の活動にむけて

災害支援チーム
統括責任者　笹岡　眞弓

東日本大震災から８年を経過し、９年目の夏を迎えようとしています。宮城県の復旧・復興の進捗状況は、今年の３月末計画戸数であった１万 5823 戸すべてが完成したとのことです。しかし２月現在でいうと、応急仮設住宅の入居者は宮城県で約 700 人、石巻市では 112 人、様々な課題を抱えながら生活していらっしゃいました。それでも期限がある中で仮設住宅の集約は進み、６月現在で石巻市の仮設住宅にお住まいの方は 10 世帯となっています。そして、移行した先の復興住宅で、新たな社会問題が生じています。

復興住宅は終の棲家です。多くの課題を封じ込めてその家で暮らす中で、言いようのない喪失を感じている方もいます。私たちソーシャルワーカーが支援した結果がどうだったのか、石巻市は自立再建プログラム策定後の結果を次のようにまとめています。

「

被災者の意向に沿った再建支援を推進

被災者の個別事情に鑑みながら、＜中略＞　訪問による個別相談に対応するなど

きめ細やかな支援に繋げました。

」

と書き、再建意向未決定者が１年で約 90%減り、その１年後には 99%まで減少したことを述べています。意思決定への取り組みを当協会に依頼したこと、そしてこの支援が個別支援であったことが重要だと考えます。この結果は成果であり、その支援を主に当協会が担ったこと、そこにソーシャルワーカーがいてくれたからこそ、という評価を生活再建課がしていることは、大きな励みとなっています。しかし、先述したように、この時点で復興の波に取り残された方々への支援には、専門職であるソーシャルワーカーの力が必要です。

クロージングに向けて、我々の支援を総括し、課題を整理し、次につなげるために現地のソーシャルワーカーを全国組織として支え、石巻市の被災市民に貢献することが、今後の活動であることをご報告致します。

2. 今年度に向けて

石巻事務所
現地責任者　　福井　康江

本協会が石巻市での被災者支援活動を開始してから、９年目に入りました。

市の報告によれば、４月末現在のプレハブ仮設住宅入居者は、37 世帯入居者 70 名となっています。プレハブ仮設住宅ではピーク時(H24､6)には 133 団地､6,707 世帯､16,788 人が生活をされていましたので、発災からの８年の月日の中で、生活再建に向けて様々な変化（動き）が市内を中心に起きていたことを実感しています。

復興公営住宅の動きでは､今年の３月には石巻市最後となる新規復興住宅の鍵渡しが済み、おおよその方が入居を済ませ、最終目標戸数の 1176 戸が建設されましたが、５月１日現在の情報では、復興住宅全体では入居率が約 84%となっており、100 戸以上の空き室が出ている状況となっています。こうした現状を受け、今年の３月からは復興公営住宅の入居者の一般（被災者以外の方）募集も始まったところです。

私達の動きとしては、2015 年度から市から委託を受けていた「仮設住宅等被災者自立生活支援事業」は 2018 年度で事業終了となり、今年度からは改めて「社会福祉士等相談支援事業」の委託を受けることとなり、幅広い市民の方を対象に相談支援を行うことになりました。現地スタッフは、昨年は５名体制でスタートしましたが、今年度は３名体制となり、相変わらず日々の業務の慌ただしさは続いています。

先に述べたように、数少ないながらも、現在も生活再建への支援が必要な仮設住宅入居者の方もおられ、最後の一人までの思いで支援を行っています。また、生活再建後の方への支援では、疾患や受診に関することと経済的問題に対することが中心となってきています。

石巻日和山からの風景　（平成 31 年４月撮影）

また、国の「復興・創生期間」の終了まであと２年となり、包括ケアシステムに向けてや、新介護保険制度にある“生活支援体制整備事業”も動き始めています。
災害で失われた元のコミュニティへの思いを受けとめながら、孤立化防止を始めとし、新しい居場所（コミュニティ）で“その人らしい生活を定着させてゆく”支援をこれからも更に行ってゆきたいと思っています。

3. 石巻の３年間を振り返って

～ SW として今後も生きていく選択肢の確立 ～

石巻事務所
元現地担当　　菊田　駿〔2019 年３月 31 日退職〕

2016 年５月７日～2019 年３月 31 日まで石巻市での仕事を経験し、約 300 人の市民の方との出会いがありました。その多くは、自立生活支援事業で対象になっていた方、復興住宅入居に向けて支援の依頼があった方や、他機関の紹介で支援に至った方々でした。

自立生活支援事業で対象になっていた方は、仮設住宅からの転居先が未確定の世帯についての聞き取りから始まるため、何が原因で転居先へと踏み出せないのかを考えていく必要がありました。そして、その課題について解決支援をしていくという内容でありました。

復興住宅入居支援での対象者は入居に向けた支援が中心ですが、入居に向けた手続き支援を進めていくにあたり、経済的な困窮や家族関係等の生活課題が出てくることが多々あり、入居手続きの支援だけではありませんでした。

又、自宅を訪問することで病室での面接とは違い、その人の“色”が見える気がしていました。それぞれの自宅の“色”があり、個性があり、特徴がありました。どのようなこだわりがあるのか家の中を直接みることで分かることがたくさんありました。その人の生活を考えるうえで自宅の様子をみることが大切だと気付きました。

そして、ケースを通じて SW という仕事は何が大切なのか、何を大切に取り組んでいった方がいいのかが見えた３年間になりました。

SW の武器はクライエントの言葉、クライエントの言葉と共に具体的に行動することが大切ということを学びました。

クライエントの気持ちに心を動かし、考えていき、心配していることを共有する。一緒になって今後の生活をどのようにしていきたいのか考え行動する。共に動くことの大切さを学びました。

最後に・・・

１日１日が非常に濃かったです。それは色んな方との出会いがあり、その出会いの中で話を

することで色々なことをその方たちから教わりました。一つひとつの出会いが素晴らしかったと思います。今後も SW として働き、人と出会い、話し、学び、共に歩んでいきたいです。

３年間、ありがとう石巻

4. 自立支援事業を振り返って

仮設住宅被災者自立生活支援事業を振り返って

石巻事務所
現地担当　　佐藤　なおみ

仮設住宅被災者自立生活支援事業は「仮設から自立する方法や時期等について判断しかねている自立困難世帯等に対し、医療・福祉の専門員などを派遣し、身体や心のケアなどをはじめ、恒久住宅への早期移転に向けた情報提供、相談、手続き等の支援を行い、仮設住宅からの円滑な移転を支援する」ことを目的として平成 27 年度 4 月から開始されました。当協会は、同事業を受託し、自立生活支援専門員として自立困難世帯を中心とした支援を行ってきました。

私は平成 29 年の 10 月に入職し、支援に関わってきましたが、昨年度に自立支援事業の受託が終了し、今、思うことは、このようにたくさんの人と関わるような事業に携わることは、これから、そんなにないだろうなということです。

仮設住宅は、いわば一つの地域を凝縮したような場所です。子育て世帯、高齢世帯、障害世帯。そして、支援を必要としない世帯。団地のすべての世帯状況を把握する。まず、このような支援自体があまりないことだと思いました。

支援を続ける上で感じたことは、退去期日である“供与期限に退去することを支援する”ことの難しさです。特に、支援を必要としない世帯へのアプローチが大変でした。仕事をしていて、会うことが難しかったり、忙しいために期限までの退去が難しかったり。

石巻市からの委託ということもあり、担当課との調整、住民の事情の説明、住民が期限まで“退去できない複雑に絡んだ事情”に焦点をあてながら、支援し退去を目指す。これが自分にとっては難しく感じました。

退去を支援することは、ただ「期限までに退去してください」と伝えることではなく、世帯状況の把握、経済面、仮設住宅内の荷物の量、世帯のスケジュール等、世帯全体をとらえた上での関わりとなります。そして、引っ越しというお金も時間も労力もかかることを推し進めていくことが、住民さんにとって、プレッシャーになっていたこともありました。それを感じるたびに、ずっと「どうしたらいいのだろう」の自問自答でした。

そのような中でも、心の支えになったのは、同じ自立支援事業を受託する５団体の皆様と伴走型事業の皆様です。個別ケースやエリアミーティングで会う時にする雑談に、どれだけ心癒されたか。「お互い大変だよね」と共有することで、なんとか乗り切ることができました。

仮設住宅被災者自立生活支援事業は今年３月で終わりを迎えましたが、今年度は社会福祉士等相談支援事業を受託しています。今年度は復興住宅の住民や在宅被災者を中心に支援し、地域の資源につなげる事業になります。震災９年目。何をもって“復興”とするのかを、被災者を支援する立場として、また、石巻市民としても考えていきたいと思っています。

5. 石巻市の現在の様子

石巻事務所

現地担当　　清水　大地

1．石巻現地職員の事務所の転居

石巻現地職員の勤務する事務所が移転しました。これまで使用していた事務所はプレハブ仮設で、他仮設住宅団地のように解体をするためです。新しい事務所は、石巻市の同地区内にあるビルの３階になりました。

これまで使用してきた仮設住宅の事務所は、元々公園のあった場所に建てられていましたので、解体をし、元あった公園に戻す計画のようです。

これまで使用してきた事務所が解体され、元の公園に戻り、地域の憩いの場になって行くことに嬉しさを感じる反面、私が入職する前から、様々な方々の出入りがあり、事務所として使用してきた建物がなくなって行くことには寂しさも感じ、複雑な思いです。

公園に戻り、子どもたちの明るい声が聞こえてくることを期待したいと思います。

2. 仮設旭化成団地の転居支援が完了

仮設旭化成団地に入居する全ての方々の転居が完了しました。この仮設旭化成団地は、石巻市の河南地区にある団地で、他の仮設住宅団地の入居者が、仮設間移転する集約移転先にもなる大きな団地の一つでした。この仮設旭化成団地では、たくさんの方々と関わらせて頂きました。供与期限であった２０１８年７月には、多くの方々を訪問し、再建に向けたお話を伺いました。

2019 年４月 30 日をもって、全ての方の転居が終了し、皆さんが新しい生活を始められています。

3. 歩行者デッキ開通

「市役所・防災センター」、「市立病院」、「（仮称）ささえあいセンター（建設中）」の３つの施設を２階の高さで結ぶ歩行者デッキが完成し、５月８日（水曜日）に通行が可能となりました。この歩行者デッキは、東日本大震災による津波で市役所周辺も浸水し、災害対応が制限されたことを教訓に、今後、万一想定を超える津波で浸水した中にあっても、災害対応の任務にあたる「行政」「医療」「福祉」の施設を連結することで、連携して活動し続けるために建設されたそうです。（石巻市ホームページ，2019/4/24 参考）

写真は、石巻市立病院から撮影したものです。駅前の道路も整備され、歩行者だけでなく車も走りやすくなってきました。歩行者の利用も増え、更に駅前がにぎやかになっていくことを期待します

6. 災害支援チームからのお知らせ

【1. 書籍販売】

『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、
『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、
『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』
『東日本大震災　医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅣ』の
販売を行っています！

発災から 2011 年9月３０日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011 年 10 月から 2012 年１２月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』に、2013 年１月から 2014 年３月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

そして新たに、この５月下旬に『バトンⅣ』を発行いたしました。

2014 年４月から 2016 年３月までの災害支援チーム、石巻市での復興公営住宅への入居支援・仮設住宅被災者自立生活支援・グループワーク支援・市民活動支援の記録です。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせて頂きます。

※ご注文は注文用紙で承ります。（注文用紙はホームページからダウンロードできます）

バトンⅠ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45
バトンⅡ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=50
バトンⅢ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54
バトンⅣ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=59

【2. facebook】

facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いいたします。

URL：http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970

【3.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。」

URL：http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4‥feature=youtu.be

7. 災害支援ニュース発行のお知らせ

次回発行予定　**令和元年９月（暫定）**

（原則として　３ヶ月に１回の発行予定）

8. あとがき

石巻現地職員から

清水　大地

６月を目の前に、窓から入る風が気持ちよく、とても過ごしやすい時期になってきました。私たちの事務所も引っ越しが無事に終わり、これまでと眺めの違う外の景色にも慣れてきた頃です。

住民の皆さんからは、「引っ越したんですか。」「落ち着いたか。」と、私たちの引っ越しを気遣ってくれたり、労いの言葉をかけてもらっています。“気にかけてもらっている”ということが、こんなにも温かい気持ちになるんだなぁと感謝の思いがこみ上げてきました。それと同時に、こう言った役割を私が担ってこれたのか振り返ることもでき、改めて労いや心遣いが与えるものの大きさを実感させられています。

今年も暑くなりそうです。紫外線、熱中症対策をして、夏に臨みます！

新事務所の様子

【報告】　石巻市立病院開成仮診療所　診療終了

フェイスブックではすでに報告しましたが、７年前の５月 30 日石巻市立病院開成仮診療所は開院し、今年５月 31 日その使命を終え閉院となりました。

患者の皆さんは石巻市立病院の外来に引き継がれるとのことです。

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
令和元年 6 月 20 日　第 9 巻（第 1 号）
作成　日本医療社会福祉協会
災害支援チーム事務局